



この豊総で思い出や友だちという宝物を見つけたことは、僕の人生をより色鮮やかにしてくれたとともに、僕の選択が正しかったと教えてくれました。  
(卒業生答辞より)

## 卒業証書授与



代表 藤原 輝星



20期生 188名

2月28日

## 学校長式辞

(抜粋)

小山 朋子 校長

そして皆さんにもう一つお願いがあります。皆さんの中にはこの春から但馬を離れる人もいますが、これからも豊総に、そして地域に力を貸してほしいのです。急速に変化していく時代の流れの中で、皆さんが生まれ育ったこのふるさとでも変化が求められています。この地域ならではの歴史や文化を大切にしつつも、時代に即した「在りたい未来」を創りだしていかなければなりません。この地域の未来には皆さんの力が是非とも必要です。但馬に生まれ、仲間とともにかけがえのない高校生活を送った皆さん、たとえこの地を離れても、ふるさとと繋がって、それぞれが学び経験して得た英知を、どのような形でもいい、ぜひ豊総の、そしてふるさとの未来に注いでください。母校は、そしてふるさとは、いつも皆さんを思い、待っています。

## 来賓祝辞

代表して、PTA会長 中村 歩様  
よりご祝辞をいただきました。

## 在校生送辞

(抜粋)

生徒会長 三谷 鴻太

人生とは、自分を見つけることではなく、自分を創ること。大事なのは今までの自分ではなく、これからの自分です。決して努力を忘れることなく、前に突き



## 卒業生退場

私たちが後輩にとって先輩と過ごした日々は、本当に大切なものです。一つの歳しか変わらない先輩方がどんなに勇ましく思えたことでしょうか。名残は尽きませんが、これからは私たちが豊岡総合高校の伝統を受け継ぎ、私たちが規範とならなければなりません。まだまだ未熟な私たちですが懸命に努力し、先輩方を超えられるような存在となり、素晴らしい学校にしていこうことを誓います。

## 卒業記念品贈呈

代表 指方 優未

## 卒業生答辞

卒業生代表 細川 然  
(裏面に全文を掲載しています)



保護者、在校生代表生徒(生徒会)、職員が拍手で見送りました。

厳寒の冬も過ぎ去り、春の日差しにきらめきを感じる今日、僕たち20期生188名は、卒業の日を迎えました。入学したことがつい最近のことに感じるほどに充実した高校生活が幕を閉じようとしている今、僕はこの場に立てていることを誇らしく感じます。しかし、一歩大人へと近づくことに、嬉しいような寂しいような気持ちを抱えています。皆さんは今、何を感じ、何を思い出していますか？

一年生。3年前の4月、中学とは異なる制服を身に纏い、初めてのネクタイを結び、大きな期待と不安を胸に入学式を迎えました。この日のことを、ついこの間のことのように今でも鮮明に覚えています。広い校舎の中を迷い友達と笑いながら移動しました。自分の進路実現に合わせた時間割を作りました。初めての経験に驚きを隠せないまま僕たちの高校生活は始まりました。6月には1回目の遠足がありました。初めてのイベントということもあり心弾む気持ちで城崎マリワールドに訪れました。11月には2回目の遠足という名の豊岡巡りをしました。初めは友達と愚痴をこぼしながらも最後のクイズ大会では盛り上がり、笑い合ったのはいい思い出です。

二年生。やはり1番の思い出は高校生活最大のイベント、修学旅行です。先生方の入念な計画のおかげで、生徒全員が期待していた沖縄に行くことができました。1日目の沖縄県平和祈念資料館では、当時の服や生活品、戦争を体験した方々の証言集などを目の当たりにしました。戦争の酷さ悲惨さを改めて感じ、戦争は2度としてはならない、忘れてはいけないものだと思感させられました。伊江島では、初めての民泊体験をしました。民泊ならではの体験やタコライス、郷土料理のジーマミー豆腐などもいただきました。当日の伊江島は僕たちを快く迎えるかの如く快晴で伊江島にある山「城山」にも登ることができました。美ら海水族館では初めてジンベイザメを見て、国際通りでは多くのお土産を買い友達と回りながら、最高の思い出を作ることができました。忘れることのできない四日間となりました。

そして、三年生。一、二年生とは異なり、部活動最後の大会に向けて準備する人や入試、就職試験を見据えて勉強する人などが増え、各々が自分のすべきことに真剣に取り組んでいたことが印象的でした。それと同時に最後の文化祭や体育祭に期待を膨らませながら高校生活最後の1年が始まりました。部活動では、僕は硬式野球部に所属していました。秋の大会ではベスト16まで行くことができましたが、夏の大会では目標としていたベスト8にはいけず悔しい思いをしました。しかし、毎日朝練に通い続けたこと、仲間と切磋琢磨しながら高めあったこと、全員で鬼のようなメニューをやり切るために支え合ったこと、全ての思い出が忘れることのできないほどに濃いものとなりました。他の部活動よりも同級生同士のぶつかりが多く、たくさん悩み、たくさん話し合い、大変な思いをしてきました。それでもチームを支えてくれたマネージャー、チームを引っ張り続けた副キャプテンの2人、そしてチーム一丸となるよう辛い思いをしながら前を向きひたすらに努力してくれたキャプテン本当にありがとう。時に優しく、時に厳しく僕たちを指導してくださった顧問の先生方。練習での的確なアドバイス、試合での部員以上の熱意を持って臨む姿勢が僕たちをより強くしてくれたと思います。僕たちを人として、高校球児として成長させてくれた自慢の先生方です。ありがとうございました。

二学期に入ると高校生活最後の文化祭、体育祭が開催されました。文化祭では、台風により1日半開催となりましたが初めてのバザーをみんなと協力して作り上げました。体育祭では、去年と同じく半日開催でしたが、今まであった土塵運びをなくし新しい競技をしたり、リレーをしたりと盛り上がりしました。どちらも記憶に残るものとなりました。目立った行事も終わりを迎え、ついに就職試験、入学試験が迫ってきました。進路に対しての不安や悩み、色々な気持ちを抱えていたと思います。しかし、毎日放課後勉強をする人、休み時間などの隙間時間を見つけ古典や英語の単語帳を見る人、補習に参加する人、面接練習をする人、20期生一丸となったからこそ、今日まで努力してこれたんだと思います。そんなみんなに一言、ありがとう。

また20期生学年団の先生方、僕達今日この場に立って卒業を迎えられるのは先生方のおかげです。先生方からすれば勉強を教えること、進路と一緒に悩むこと、一緒に楽しむこと、どれもがなんてことない普通のことだったかもしれませんが。しかし僕達にとってはどれも欠かすことのできない大切な時間であり、宝物です。校長先生、教頭先生をはじめ、部活動、進路、補習でお世話になった先生方。多くの先生方のおかげで充実した高校生活をおくることができました。感謝してもしきれないほど感謝しています。本当にありがとうございました。

これから豊岡総合高校を担っていく在校生の皆さん。生意気ながらも慕ってくれたり、挨拶してくれたり、笑い合ったりしたこと、とても嬉しかったです。三年生になると自分達が一番上の立場になります。今度はその持ち前の元気、礼儀、感謝の気持ちを持って後輩に接し、就職、入学試験を乗り越えてください。そして残りの1年間を忘れられないものにしてください。そして、友達ともっと仲良くなり、もっと笑い合った日々を過ごしてください。そんな何気ない日常が宝物になるはずですよ。

そして、野球部の後輩たち、目標のベスト16を達成した時はとても嬉しかったです。しかし豊岡野球部にはベスト8の壁が存在します。きっとみんなならその壁を超えてくれると信じています。みんなの活躍を心から楽しみにしています。頑張れ。そしてともに三年間を歩んできた20期生のみんな。三年間の高校生活、お疲れ様でした。この20期生の学年は個性が溢れていたと思います。一年生からマラソンで1位になる人、文化祭で歌を歌う人、バンドを組む人、お菓子を作って持ってくる人、髪が長い人、自分のしたいことを貫き通せる人。しかし個性のぶつかり合いで時に苦しい思いをしたり悩んだりする人もいたと思います。そんな思いをしたからと後悔している人はいませんか？僕は入学当初ハーフに間違えられたことから高校生活がスタートしました。自分自身見た目はもちろん、個性も強く周りに馴染めるか不安なこともありました。しかしそんな不安もすぐになくなるようにみんなと出会い、楽しい時間や辛かった時間を共有してきました。だからこそ僕自身大きく成長できたとともに豊岡にこれたこと、卒業できることを誇りに思います。僕は豊岡にきて高校三年間を過ごすことが本当に自分の人生をよりよいものにしてくれた選択かどうかはわかりません。しかしこの豊岡にきて思い出や友達という宝物を見つけたことは、僕の人生をより色鮮やかにしてくれたとともに、僕の選択が正しかったと教えてくれました。みんなが選んだ豊岡は正しかったと胸を張って卒業して欲しいです。

そして、お父さん、お母さん、こうして今卒業の場に立って高校生活を終わることができるのは家族のおかげです。毎朝、早く起きて弁当を作ったり、部活の送迎をしてくれたり、わがままを聞いてくれたり、自分の時間を犠牲にしてまで寄り添ってくれてありがとう。そして8年半野球を続けさせてくれてありがとう。三年生になってからは進路のことですれ違いがあったり、ぶつかったりしたこともありました。面と向かって言うことはできないけど今日この場をお借りして伝えたいと思います。いつも言うことが聞けず、言われたことができない不出来な息子でごめんなさい。家では文句ばかり、反抗することも多くとても苦しい思いをさせてしまっでごめんなさい。でも2人の笑った顔が見たくて今日まで多くのことに挑戦し頑張ってきました。これからはもっともっと自慢の息子だと言えるように頑張るからまだまだ見守っててください。本当に感謝しています。ありがとう。

さて、朝起き、制服を着て登校し、友達と「おはよう」と言葉を交わすこと、「バイバイ」と言い合うこと、くだらないことで笑い合えるのも今日が本当に最後です。これからは、自分の進むべき道歩み、目指すべき目標を叶えるために、ひたむきに努力していきます。未来のことは誰もわかりません。たとえ未来が決められていたとしても、僕たち豊岡生ならきっと未来を変えることだって簡単にはずです。もし困ったときには、豊岡での出来事を思い出して一歩ずつ歩み始めてください。一回り二回り大きく成長したみんなとまた出会える日を楽しみにしています。最後になりましたが、本日はこのような盛大な卒業式を挙行して頂き、20期生一同心より感謝申し上げます。今後の豊岡総合高等学校のますますのご発展を祈念して、答辞の言葉とさせていただきます。